

横浜市感染症発生動向調査報告 3月

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。
- インフルエンザの報告数が定点あたり1.00を下回りました。

◇ 全数把握の対象

〈3月期に報告された全数把握疾患〉

パラチフス	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
E型肝炎	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
レジオネラ症	2件	水痘(入院例に限る)	2件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	5件
ウイルス性肝炎	2件	破傷風	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件	百日咳	5件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	風しん	1件

- 1 **パラチフス**:カンボディアでの経口感染と推定される報告が1件ありました。
- 2 **E型肝炎**:経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 3 **レジオネラ症**:肺炎型の報告が1件、ポンティアック熱型の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- 4 **アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症の報告が4件ありました。うち2件は異性間性的接触、1件はベトナムでの経口感染、1件は感染経路等不明でした。
- 5 **ウイルス性肝炎**: B型の報告が2件ありました。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:2件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 7 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:80歳代のA群の報告が1件ありました。
- 8 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳未満の報告が1件(ワクチン接種あり)、60歳代の報告が1件ありました。
- 9 **侵襲性肺炎球菌感染症**:50歳代および60歳代の報告が1件ずつ(いずれもワクチン接種なし)ありました。
- 10 **水痘(入院例に限る)**:60歳代および70歳代の臨床診断例の報告が1件ずつありました。
- 11 **梅毒**:5件の報告(無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)がありました。感染地域は4件が国内、1件が不明で、感染経路は性的接触が4件(異性間が2件、同性間が1件、詳細不明が1件)、不明が1件でした。性別は男性3件、女性2件でした。
- 12 **破傷風**:90歳代の報告が1件ありました。
- 13 **百日咳**:10歳未満が3件(いずれもワクチン接種あり)、10歳代が2件(いずれもワクチン接種あり)の報告がありました。
- 14 **風しん**:タイでの感染と推定される40歳代の検査診断例の報告が1件(ワクチン接種不明)ありました。

◇ 指定感染症

新型コロナウイルス感染症の報告数は神奈川県にて集約されています。神奈川県衛生研究所ホームページをご参照ください。

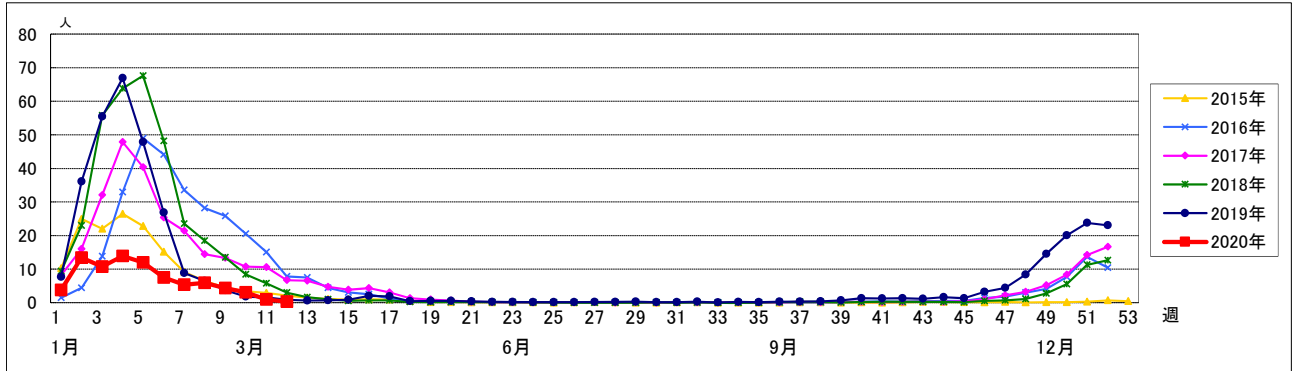
神奈川県衛生研究所感染症情報センター

http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/003_center/03_center_main.htm

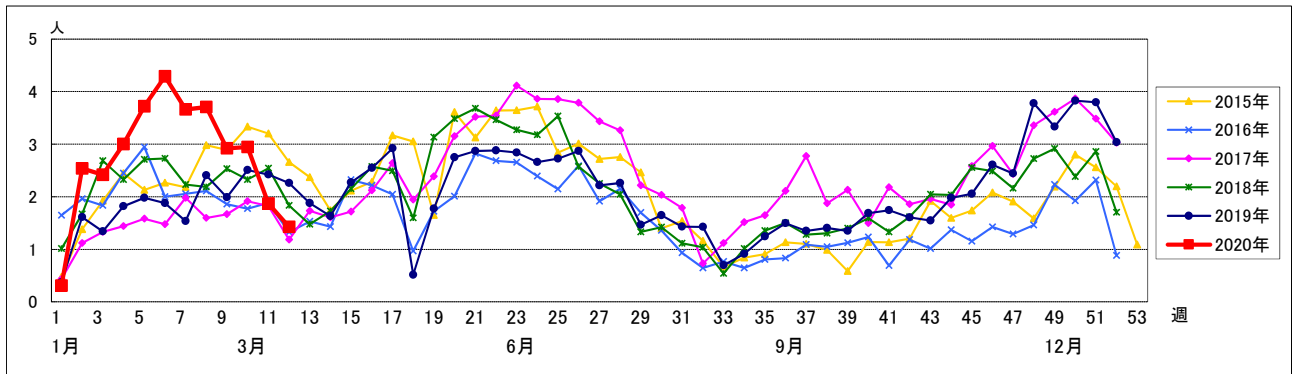
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第9週	2月24日～3月1日
第10週	3月2日～3月8日
第11週	3月9日～3月15日
第12週	3月16日～3月22日

1 インフルエンザ:今シーズンの市全体の定点あたりの患者報告数は、第40週で1.32となり、流行開始の目安(1.00)を上回り、第49週に14.51となり、流行注意報が発令されました。第51週にて23.78と今シーズンのピークとなり、第6週で7.52となり、流行注意報解除基準を下回り、第11週で0.90となり、流行の目安となる1.00を下回りました。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:冬季に入って報告数が増加し、第6週で4.29となっていました。第11週で1.87、第12週で1.42となっています。



3 性感染症(2月)

性器クラミジア感染症	男性:24件	女性:16件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:5件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:3件	女性:2件	淋菌感染症	男性:15件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第9週	第10週	第11週	第12週
細菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.33	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.33	0.00	0.67	0.67
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(2月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	1件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

3月期(2020年第9週～2020年第12週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点38件、内科定点16件、基幹定点3件、定点外医療機関からは2件でした。

4月6日現在、表に示した各種ウイルスの分離株20例と遺伝子2例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果3月期(2020年第9週～2020年第12週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *	感 染 性 胃 腸 炎	咽 頭 結 膜 熱
インフルエンザ AH1pdm型			3		
インフルエンザ B型(Victoria)	1		13		
アデノ 1型	1				
アデノ 3型					1
ヘルペス 1型	1				
ライノ		1			
ノロ G2型				1	
合計	3	1	16	1	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*:疑い含む

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

3月期(2020年9週～2020年12週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点から侵襲性肺炎球菌3件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、腸管凝集性大腸菌1件、大腸菌1件、グラム陽性菌1件。非定点からは検体依頼がありませんでした。

保健所からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、侵襲性インフルエンザ菌1件の依頼がありました。

「分離同定」の依頼はありませんでした。

小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌4件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2020年第9週～2020年第12週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
医療機関 基幹定点	侵襲性肺炎球菌	3	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 23型(1)、3型(1)、UT(1)、
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1) <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)
	腸管凝集性大腸菌	1	EaggEC O15 : HUT(1)
	大腸菌	1	<i>Escherichia coli</i> O8(1)
	グラム陽性菌	1	<i>Lactobacillus plantarum</i> (1)
保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)
	劇症型溶血レンサ球菌	1	A群溶血性レンサ球菌 UT(1)
	侵襲性インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> UT(1)
小児サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	4	T6(1)、TB3264(3)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】